

## 部活動の今

### サッカー部

松江高専サッカー部は現在、新入部員16名を加えた、総勢54名で活動しています。近年では、2014年に愛媛県で開催された全国高専大会で初の全国3位の成績を収め、2015年も中国大会で優勝し、2年連続全国大会出場を果たすことができました。しかしながら、昨年の全国高専大会では初戦敗退という結果しか残すことが出来ず、大変悔しい思いをしました。

新体制になってから最初の大会である天皇杯松江予選会では、社会人チームを次々と破り、決勝まで駒を進めて準優勝という成績を残しました。そして、7月の下旬に開催された中国高専大会では、目標にしていた優勝を果たし、松江高専サッカー部創立初の大会3連覇を成し遂げることができました。現在はこの結果に満足せず、全国高専大会で優勝できるよう、高いモチベーションでトレーニングを行っています。

日々の練習では、昨年味わった初戦敗退という悔しさを忘れず、ランニングのメニューである「ロード」や「300m走」では従来よりも目標タイムを高く設定しています。またウェイトトレーニングのメニューも先生指導のもとでさら

にパワーアップしています。最近では、個々の目標が高くなったことから自主的に筋トレを行う選手も増えてきました。これらの進化が、今年の中国高専大会を全員で走りきり、試合に勝つことができた要因だと考えています。

これからも学校関係者の方々やOBの諸先輩方に応援していただけるようなチームを目指し、新たな1ページを作っていきますので、今後とも松江高専サッカー部をどうかよろしく願い致します。



### 水泳部

松江高専水泳部は、ここ数年、多くの大会で好成績を収めております。

高専の大会である中国高専大会では、平成23年より平成28年まで6連覇を達成し、本記事執筆時も継続中です。また、全国高専大会では、平成23年に全国優勝し、平成24年から平成27年まで準優勝を成し遂げております。神戸高専の壁はなかなか破れずにいますが、二度目の全国優勝を目指して全員が一丸となって頑張っています。

また、高校の大会である県総体では、平成26年より平成28年まで3連覇を達成し、こちらも継続中です。上位大会である中国総



体では、平成23年には高田祐介君(当時、電気工学科3年)が100m平泳ぎ、平成26年には泉翔太君(当時、環境・建設工学科3年)が100mバタフライでそれぞれ全国総体(インターハイ)への出場権を獲得する快挙を成し遂げ、本校水泳部の知名度を一気に上げてくれました。

さらに、大学の大会へも積極的に参加し、平成24年には高田祐介君(当時、電気工学科4年)が100m平泳ぎで全国インカレに出場、平成27年の中四国インカレでは河原敦君(当時、環境・建設工学科5年)が100m背泳ぎで表彰台にあがる等、大学生とも互角の戦いが出来るまでになりました。

皆、泳ぐことが大好きで、スイミングクラブを中心に心身を鍛え、学校のプールにおいてもリレーの練習等一生懸命活動しております(おりました)。残念ながら学校のプールは平成26年に廃止となってしまいましたが、苦難をバネに更なる高みを目指して奮闘しております。

本校水泳部の座右の銘は「挑戦」です。OB・OGの方々には恥じないよう何事にも恐れず怯まず今後も挑戦し続けてまいります。今後ともご支援、ご声援よろしく願い致します。

Twitter、ホームページにて近況を報告しておりますので、お時間がございましたら是非とも応援に足をお運びください。

Twitter : [https://twitter.com/matsue\\_ct\\_swim](https://twitter.com/matsue_ct_swim)

Web : <http://www2.matsue-ct.ac.jp/g-kai/swim>

## 編集後記

悲しい報告があります。昨年8月に情報工学科の和田守先生、今年の4月には人文科学科の黒田先生と、2名の現役の先生が逝去されました。お二人とも長く松江高専で教鞭を執って頂いた先生ですので、葬儀には同窓生が数多く参列され、別れを惜しんでおられました。

開校50年を越えて退職教官の訃報も聞こえてきます。高専は他の学校と違い、教員と学生の距離が近いため、卒業後も恩師との交流が続いている方も多く、それだけに先生方の訃報には多くの同窓生の哀惜の念を届けたいと思っています。

最近卒業生のご子息・ご息女が入学、卒業され、もう少ししたら、3代目も入られるのではないかと期待しています。歴史を刻んだ松江高専の未来に向けて、同窓会活動もより活発に進めていきたいと思っております。



和田守先生



黒田先生

## 松江工業高等専門学校

# 同窓会 会報

第6号

2016.8.1発行

### 同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内  
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp  
<http://www2.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

## ご挨拶

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政 (24期・土木)  
松江市役所



毎年のように日本のどこかで大規模な災害が発生し、日頃の危機管理について考えさせられる今日この頃、松江工業高等専門学校同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にて国内外でご活躍のことと思います。

私は、昨年度、同窓会会長を仰せつかり、今まで諸先輩方々が築き上げてこられた母校同窓会を維持・発展させていくために、ネットワークの強化を図っていくことを就任最初の目標として掲げさせていただきました。

そのことから、昨年、松江高専が島根県の受託事業として実施された「卒業生交流フェスタ」に対して、少しでもネットワークづくりのきっかけになればとの思いで協賛し、東京・大阪・広島での3会場で合計4回開催された交流会に私自身も参加させていただきました。

結果、4回の開催で延べ280名の方にご参加いただき、参加者同士が思い出話に花を咲かせるなど大変有意義な時間を過ごすことができ、多くの方々から高評価をいただきました。

現在では、同窓会の会員数も7,400名を超え、会員の消息を把握することすら困難となっていますが、本同窓会として、このような取組を可能な限り実施して、会員相互のつながりを築いていきたいと考えています。

また、会員の皆様におかれましては、それぞれでプチ同窓会を開催するなどして、交流の輪を広げていただけると幸いです。

3年後には同窓会の50周年を迎えることとなりますが、少しでも同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう努めてまいりますので、より一層のご理解とご支援をよろしく願います。

## 「直野寮」現況について

松江工業高等専門学校 校長補佐(寮務主事) 電子制御工学科 松本 浩介



今年度より寮務主事となりました電子制御工学科の松本です。昨年度寮務主事補となり、以前と合わせ2回目の寮務担当ではありますが、前回と比べると大きく変化している部分も多く、新たな気持ちで寮の運営を考えていきたいと思っております。

本年度4月は寮生425名と定員に対しほぼいっぱい状態でスタートしました。特に1年生は107名と過半数が寮生となってここ近年増加傾向にあります。過去の寮をご存知の方は、今の寮を見たときにかなり良くなっていると驚かれる方も多いのではないのでしょうか?施設も食事もかなり改善されていると思われ、そのためか上級生になっても寮にいたいと思う学生が増えてきているようです。こ

れも善し悪しで、希望する学生すべてが寮に入れない状況も出てきています。

寮を支えてくださる直野寮後援会の保護者の中にも多くの卒業生がおられます。また兄弟姉妹で在寮している学生も多くおります。このことは保護者の方々から自分自身あるいはお子さんの高専での経験を踏まえ、なおかつ松江高専へ自分の子供を送りたいと思っていただけているということだと感謝する次第です。教員サイドでもH18年度寮長の環境・建設工学科の山口先生が本年度から寮務主事補として寮生の指導に当たられます。表裏よくご存じなので、様々な形で寮運営へのアドバイスがいただけることでしょう。

このような状況がこれからも続くよう、今後とも松江高専ならびに松江高専直野寮へのご支援をよろしく願います。

# 松江高専卒業生交流フェスタ開催報告

昨年度、松江高専と卒業生および卒業生相互のネットワークを強化し、松江高専に対する支援基盤を構築するとともに、このネットワークを活用して県内企業との一層の連携を図る、という目的から、「卒業生交流フェスタ」を松江高専、島根県、松江テクノフォーラム（松江高専の産学連携組織）と協賛して開催しました。これは、松江高専が島根県から「しまね人材確保・育成事業」の一つとして受託されて実現したもので（松江高専卒業生ネットワーク強化推進事業）、東京（9/12、11/21）、広島（10/31）、大阪（12/5）の3地域で計4回の交流会を開催しました。

各会場とも、退職された先生方や現職の教職員の方々、卒業生、松江テクノフォーラム会員企業の方々など、合計280名にのぼる非常に多くの方々に参加頂き（複数会場への参加者含む）、世代や地域・業種を超えた交流の場をつくることができました。松江高専の近況報告やロボコン、デザコンなどの出場チームによるデモンストレーションなども行われ、盛会のうちに終わりました。多くの方々にご参加頂き感謝申し上げます。

今年度からは同窓会が主体となり、上記のような交流会を年一回開催してきます。記念すべき第一回目のH28年度交流会は、昨年度新たに結成された関東支部を中心に東京（11/19）にて開催いたします。詳細は別紙をご覧ください。多くの方々にお越し頂ければ幸いです。ご参加、お待ちしております。



東京  
9/12



広島  
10/31



東京  
11/21



大阪  
12/5

# 会員の声

2名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。

## ■あの頃



株式会社 安藤・間 鳥居 春樹 (7期・土木)

一昨年、松江高専創立50周年記念交流会に参加し、久しぶりに学び舎を目の当たりにしました。その光景は45年前の入学時に見た、あの晴れがましい光景と交錯するものでした。憧れの学校に入学できた喜び、これからの生活に対する夢と不安、そんな想いが一瞬脳裏を過りました。私が過ごした小学校は既に廃校になり中学校ももうすぐそうなるという、この学校だけはいつまでも輝き続けて欲しいと思ったものです。

あの頃、島根県全域のみならず他県からも入学してくる、目を見張る友に出会い、厳しい寮の先輩（憧れでしたが）に接して「自分は何にも知らない」という劣等感に苛まれ、寮で夜毎論じ合うすばらしき友には付いて行けず、サッカーだけを一生懸命やっていた。これではいけないと猛烈に本を読み始め、夜毎の友の仲間入り。男ばかりの自由な校風の中で何度自分の殻を破ったことか。本当に青春そのものだった、あの頃。

お蔭様で想い描いたゼネコンに勤めることになり、今は第22期の後輩も同じ本部で働いています。当時の部活の先輩や後輩の方々は今どうしていらっしゃるでしょうか。皆様のご健康と同窓生のご活躍と私のふるさと高専の更なる躍進を祈念しております。

## ■Internet Weekを通して



セコム山陰株式会社 細木 正司 (2期・情報)

社外活動として、5年前からInternet Weekのプログラム企画に協力しています。Internet Weekは、JPNIC (IPアドレスなどのインターネット資源を管理する組織) が主催するインターネットの基盤技術や最新動向を学び・議論するイベントです。例年、11月に1週間、東京で開催されます。2年前、島根に戻ってからも引き続き参加しています。

私は、「仮想化技術」分野のプログラムを担当・司会進行しています。仮想化技術は、近年、非常に発展してきました。1台のコンピュータの中で、複数の仮想コンピュータを動かすことができ、コンピュータの資源を効率的に活用できます。

プログラムを企画する上で気をつけているのは、この分野で困っていること、一歩先の次に必要となることは何か、ということです。2012年・2013年は、仮想化技術の運用監視・自動化に焦点を当てました。2014年は今では一般的になっているコンテナ技術の「Docker」、2015年はオープンソースの仮想化基盤として注目を集めている「OpenStack」を取り上げ好評でした。

その道の最先端で活躍されている方に講演をお願いすると、思いがけず高専出身者と出会い、その活躍ぶりに刺激を受けます。

今年も入念にプログラムを練っているところです。インターネットの発展に貢献しつつ同窓会を通じ新たな交流をしていきたいと考えています。

## 平成27年度

# 定年退職教員 紹介

昨年度をもって、高木健司先生、高橋信雄先生、飯塚育生先生の3名の先生方が松江高専を定年退職されました。その3名の先生方にお言葉を寄せていただきました。

## 碧空を求めて

数理科学科 高木 健司



私は昭和50年春、大学卒業後すぐ本校に着任しました。着任早々受け持った卒研生と登った大山。今でもその時の大山の空気感と共に思い出します。楽しかったけれど、当時の私はまだ学生気分そのままだったので皆様にはご迷惑をおかけしました。私は大自然と触れ合うようなことは何でも好きで、特に山が好きです。登山と仕事は二人三脚でやってきました。どちらかがこけるともう一方も一緒にこけてしまう感じでした。ヨーロッパ、ヒマラヤ、アフリカ、南米の山々を巡り、アフリカの最高峰キリマンジャロの頂上からはパラグライダーで飛行しました。ある時、近くの山での飛行で骨折し、松葉杖で教壇に立ったのはイタかったです。何事も油断大敵。着任以来41年、あっという間でした。この3月無事に定年退職を迎えることができました。性懲りもなくこの夏には世界の山々と一緒に巡り歩いた岳友と、フランスのモンブランに登る予定にしています。退職に際しては同窓会よりすてきな記念品を頂きました。まことにありがとうございました。皆様のご多幸とご発展を心よりお祈り申し上げます。



南米アンデスにて

## 企業出身教員の思い

電気工学科 飯塚 育生



企業の研究所、といっても製造に近いところで製品開発を行った後、昭和63年1月に本校の電子制御工学科に着任しました。当時は電子制御工学科の1期生が1年生でした。講義では電気基礎、電磁気学、実験実習では電気工学の基礎実験や組み込みマイコン回路の製作を立ち上げました。

企業経験を生かそうと負荷の大きい課題を押し付けてしまったと今では反省しておりますが、当時の諸君はよくフォローしてくれました。電磁気学は難解であると学部在籍中は思っていたのですが、ベクトル解析のイメージ図が多い海外のテキストを選んで勉強するとそれほど難解ではないと感じ、考え方・理論を全面に出して講義しました。しかし、いざ教壇にたってみると反応が良くありませんでした。高専ではベクトル解析を勉強するのは高学年になってからでしたので、ツールとしての数学と応用の工学に前後関係の逆転があり、それが原因ではないかと悩みました。暗記はしてほしくない、という意図があった、論理的展開を進めたのですが、・・・。

その後、平成7年から情報工学科に移籍して、応用科目としての情報通信工学を担当させていただき、平成17年に電気工学科に移籍したのち現在まで続けております。

退職後は再雇用で週4日授業や実験で出校しておりますが、福間先生のEDLCを組み込んだシステムの開発にも協力しております。

平成20年から5年間、学科長という立場にいて、企業のリクレーターの方々から卒業生の皆様の活躍について高い評価をよく聞き、嬉しく思いました。同窓会の皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

